

平成26年度 産業技術連携推進会議 ライフサイエンス部会 第15回デザイン分科会
平成26年6月12日(木) 13:00~17:30
出席人数: 50人

本会議議事録

1. 開会 司会: デザイン分科会副会長 大野尚則
2. 挨拶

デザイン分科会長	川本 誓文
ライフサイエンス部会	宮田 なつき
岐阜県工業技術研究所長	村田 明宏



川本会長 (大阪府)



宮田氏 (産総研)



村田氏 (議長、岐阜県)

3. 議事 議長は慣例により開催県より選出 → 議長: 村田氏

- 1) 連絡事項 川本会長

- ・平成26年度からのデザイン分科会新体制について説明。

- 2) 施策紹介

経済産業省商務情報政策局クリエイティブ産業課の中谷浩之氏より、「デザイン政策の概要」と題し、施策の紹介があった。



経済産業省 中谷氏



本会議の様子

- 3) 研究交流会

ものづくりデザイン研究会 (5F和会議室)、地域デザイン研究会 (4F研修室2)、ユニバーサルデザイン研究会 (以降、UD研究会、3F楽屋1) の3研究会に分かれて、それぞれのテーマに基づき意見交換を行った。



ものづくりデザイン研究会



地域デザイン研究会



UD研究会

4) ポスターセッション (5 F 和会議室)

12枚のポスターを展示し、各県の事業紹介やデザイン事例などの紹介があった。熱心な意見交換がなされた。



ポスターセッションの様子

5) 全体会議

①研究会報告

○ものづくりデザイン研究会：野上氏（滋賀県）

ものづくり報告します。産地支援、プロデュース、デザインマネージメント、デザインプロセスの支援が中心になっています。他に医療関係で共同研究等の取り組み等報告がありました。コンピュータ系の話ではデータベースの構築や、3Dプリンター前提のCAD、3Dプリンターの報告が多くありました。

北海道からデザインマネージメントゲームの紹介が有り、参加したメンバーからは秋の分科会でやってみたいとの声があがりました。

○地域デザイン研究会：岡本氏（千葉県）

地域デザイン研究会では時間が少なく十分な議論が出来なかったのが残念。オブザーバーの方を入れて19名の参加。地域によって活動は様々ですが、個別の地域資源を生かした活動が報告された。焼き物、木工、照明などの製品化やPR、プロデューサー、デザイナー、研究者としてもものづくりに参加しており、オールラウンドでデザイン活動している人が多かった。問題はデザイン担当者の仕事が色や形の純粋なデザインワークから離れた所にシフトしているということ。デザイン担当者の存在意義が有効ではあるが、曖昧になってきているということ。

特出としてご当地キャラを取り上げた。ご当地キャラは地域振興に役立つと思われるが、デザイン担当者としてあまり関わっていない人が多く、行政側が扱っているのが現状。デザイン担当者をご当地キャラを活用出来れば地域振興に有効ではないかと思う。

○ユニバーサルデザイン研究会：多々良氏（静岡県）

ユニバーサル報告。10名参加で各取り組みの紹介がありました。製品開発セミナー等を開催したりしている、製品化に関して最後までやりきれない。製品化について最後まで首を突っ込めるようにしたい。長野県はデザイン担当者居なくなった。外部デザインをつかい事業を進めている。青森県では来年度、新たにセンターが出来る。

質疑応答等

頭師氏：静岡でゼロエミッションを目指した活動事例があり、その製品を持ってきた。

川本氏：各報告を聞きましたが、各機関のデザイン取り組み状況は様々で温度差もある。人員が配置出来ない所とそうでない所の差が出てきている。

この会議に出席していない機関の状況は解らない。今回短い時間で議論するのは難しいと身にしみて感じた。今後、情報交換の仕方を工夫する必要あると感じる。

羽生田氏：地域デザイン補足。有機ELの考え方が良かったので皆さんに周知したい、参考になると思います。

②提案・要望事項

参加申し込み時に会員からの提案・要望を募ったところ、埼玉県産業技術総合センターの影山氏から以下の意見があった。

「コラボンを発展させること、現状では個人の力に頼ることで成り立つが、分科会員全員で運営を行えるよう、情報を投稿、提供ができるWebサイト等の形式にする必要があるのでは。」

影山氏：秋の開催時にコラボンについて串田さんに見せて頂いて、ウェブ化について検討した方が良いと思い提案させて頂いた。

川本氏：影山さんと全く同意見、資料準備した。

コラボン継続しなければならないと仰せつかっている。予算確保されないでPDF化してきたが、これをウェブ化したい。

コラボンをウェブ化することになった場合は、管理に労力を伴うので作業を分散化したい。

過去5年議事録みると、問題が1～5まであり資料の通り。

現在、野上さんの所で管理してもらっているウィキはあまりアクセスされていない。デザイン分科会での成果・意義が問われており、これに歯止めをかけたい。

デザイン分科会では分散討議に十分な時間もない、これらの問題を解決する手段としてコラボンのウェブ化を考えている。研究員の言葉として力を結集して発信していく必要が有る。各県の成果データを掲載し可視化する、研究所等のサイトともリンクすれば、企業や一般にも観てもらえる機会が増える。そうすれば予算が無くデザイン分科会に参加出来ない機関も、情報発信は出来るようになる。結果的に、現在デザイン分科会に参加してない機関にも参加してもらえる。

研究会活動では日常的にサイトを活用し、外部の人が見られるようにするとよい。新商品の開発などはサイトを活用すれば広められる。

それぞれの担当者が各自のタイミングでウェブサイトを投稿出来て、順に更新されるようになっている。

デザイン分科会のサイトの情報も盛り込む、例えば開催記録や運営要項を掲載する。外部が観る事もできるし、我々だけが観る事も出来る。各地域部会の活動も必要であれば掲載することも出来る。まずは近畿のサイトを例にコンセンサスを得たい。

質疑応答等

野上氏：皆が管理できるウェブをWIKIで作った。当時ウィキペディアが流行っていたが、結果、僅かな人しか更新して頂けなかった。更に使いやすいシステムにするが、繰り返しにならないか心配、皆が触れる工夫が必要だと思う。

川本氏：大阪でBMB（ビジネスマッチングブログ）を7年やっている。560社の加入があり昨年度はレスポンスWebデザイン、スマホで観れるサイトへ変更した。ただ、実態は25社程度が情報提供するだけに留まっている。参加している人も飽きる。サイトを作る事は簡単だが運営が難しい、更新されないサイトは作らない方が良い。ウェブサイトへ情報を掲載する事が難しい所属があるなら、率直に言ってほしい。

橋本氏：次の分科会長が引き継いだ場合に、サーバー等どうなるのか？

川本氏：今の所、滋賀県の野上さんにお世話になるしかない。

野上氏：将来的にはレンタルサーバーへ移行が望ましい。

川本氏：次世代に引き継げるものにしないといけない。

橋本氏：広島県のパソコンではアクセス制限が有るが、研究用のパソコンではウェブを閲覧出来

る。書き込み続けさせる方法として、掲載情報に対して表彰したりする、例えばグランプリを決める等すればモチベーションにつながる。
またメディアに載せる等、ウェブ掲載の価値を高める方法を検討してはどうか。

川本氏：積極的意見ありがとうございます、表彰してランキングするのは良いアイデア、フェイスブックの「いいね」数評価も良いと思う。
ウェブサイトへの登録を組織の代表アカウントで登録したい、個人のアドレスでは更新が大変。

議長：まずは滋賀県でコラボンを運営ということになります、いかがですか。

榊谷氏：自分の県で問題になるのは、情報は個人の判断では出来ない等いろいろあるが、諸問題乗り越えていきたいと思う。みなさんにもその気持ちを持ってもらいたい。

議長：ウェブサイトへの掲載に関して、各県様々な事情がある。情報セキュリティーも引っかかるかもしれないが、上層部まで了解得られれば情報掲載する事は可能だと思う。

出席者：フェイスブックだと駄目ですか？

川本氏：自治体フェイスブックは増えているが、職員端末でフェイスブックを見ようとするときシャットアウトされる。リンクを張るにも問題がある、コントロール出来る情報にしておく必要がある。

出席者：コラボンはネタ本のようなもの、実際のコラボレーションに繋がる取り組みとなればといい。昔の全試展のように一回/年等決めておかないと頻りに情報を掲載する人とならない人との差が出来るのでは。

浜口氏：分科会へ参加する意味合いは、モノづくりのプロセスを共有することが出来ることだと思う。例えば、3D。何の機種を入れて、どのような使い方をしたのか、どのようなニーズがあったのか、誰が旗をふって、どのような経緯で進めた等を共有する事が参考になると思う。本来コラボンは、投稿なのか、クローズ環境なのか、オープンなのかを掘り下げるべき。

川本氏：閲覧権限は分科会メンバーに限定する事は出来る。コメントのやり取りや意見交換も出来る。デザイン分科会の議場でプロセス等の話をしたいと思う、ウェブサイトの結果が掲載されていれば、結果の話を省いて分科会議事を進める事が出来ると思う。

岡村氏：経産省の人にコラボン見て誰のための冊子かと言われた。
デザイン分科会に所属する人たちがヒントを得る場所ならばウェブ化で良いと思うが、企業の人々が活用するような販促には使えないのか、役所が関わると問題はあるのか。

川本氏：内部情報だけで完結するなら、ログインさせて外に出さない事もできる。
公設試を外部に知ってもらいたい。経産省にも関心を持ってもらう必要がある、多くの人に見せるメリットがあると思う。

出席者：様々な活動を知ってもらうという事であれば、リンクを張ってもらえるウェブサイトになるといいと思う。情報として誰が見ても有効なウェブサイトになれば良いと思う。

川本氏：アンケート内容でこの辺りの事を盛り込んである。皆さんの意見をアンケートで集約して階層ツリー構造が出来ると思います。

議長：アンケートに協力、ウェブ化については皆さん賛成だと思います。
挙手をお願いします、賛成は多数なので、コラボンのウェブ化を進めたいと思います。
反対意見はアンケートでお願いします。運営が問題になると思いますが今年中に内容をも
う少し詰めて、運用に関しては次回の分科会でまとめることとしたい。

③次期開催県、次年度開催県の紹介と挨拶

○次期開催県：長野県工業技術総合センター 宮嶋氏
第16回秋のデザイン分科会を11月13日（木）、場所は長野市内を予定している。

○次年度開催県：京都府中小企業技術センター 古山氏
第17回春のデザイン分科会を、6月頃、京都府中小企業技術センターがある京都リサーチ
パーク内での開催を予定している。



長野県 宮嶋氏



京都府 古山氏

◆意見交換会（交流会）

会場：グランベール岐山 岐阜市柳ヶ瀬通6丁目14番地 058-263-7111

参加人数：42名

概要：屋外バーベキューを囲みながらの意見交換会であったが、開始早々に大雨・突風に見舞われた。30分程度で天候が戻り、その反動もあってか、各地域のデザイン関連施策・事業に関して熱心な意見交換がなされた。



意見交換会（交流会）の様子

◆飛驒の匠による木工家具の開発とデザイン I

場所：飛驒産業株式会社（工場見学）

参加人数：45人

概要：「飛驒の匠」で知られる伝統技術を元に西洋家具メーカーを創業した飛驒産業株式会社を訪問した。本社の研究開発棟では地域に多く存在する杉の有効活用を目指し、杉の圧縮技術に関する説明を受けた。また、曲げ木技術を使ったホワイトオーク製の木製椅子やテーブルなどの生産工場を見学した。



飛騨産業株式会社の見学の様子

◆飛騨の匠による木工家具の開発とデザインⅡ

場 所：飛騨の家具館

参加人数：45名

概 要：飛騨産業のショールームである飛騨の家具館にて、飛騨地域の木工産業の歴史を感じさせる歴史的な椅子製品や、日本の家具デザイン史に残る社外デザイナーと飛騨産業がこれまで取り組んできたコラボレーション作品を見学した。



飛騨の家具館の見学の様子

◇オプションツアー

場 所：岐阜県生活技術研究所見学

参加人数：27名

概 要：木工と人間工学を中心に事業を実施している岐阜県生活技術研究所を見学した。



岐阜県生活技術研究所の見学の様子

以上